

刊夕日四月五



定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
 発行所 東京市本町三丁目 常盤屋新聞社  
 電話 六三〇  
 印刷所 東京市本町三丁目 常盤屋印刷株式会社

李官堡の激戦と

### 大越中佐の戦死に就て

岡本少将閣下御前講演

大越中佐殿壯烈なる戦死を遂げられてより茲に二十七年中佐が至誠至直の人格と忠篤温潤の薫化は赫々たる武勳と共に千載に輝き年と共に教化の偉大なるものを感じるのであります。中佐殿戦死當時の副官でられた岡本忠雄少将閣下が昨昭和六年五月陸軍大學に生戦史研究旅行の爲の地に出張の御参加の閑院宮春仁王殿下御前に於て「予が参加したる千洪屯の強襲に就て」と題し御講演せられた其の講話案を閣下より御寄贈になりました。拜讀するに中佐の雄大なる心境もよく窺はれ古武士の面目實に躍如たるものがある今や國家重大なる秋に直面し吾々武人として中佐に學ぶべきもの極めて多い、敢て一書を座右に呈する次第であります。

昭和七年三月七日大越中佐殿御命日に於て  
 帝國在郷軍人會石城郡聯合會長 山崎清三誌

岡本は命により殿下の御前に呎尺して私が参加致しました。此千洪屯強襲の御話を申上ることを得ずのは誠に身に餘る無上の光榮であります。

然し乍ら三千に近き我歩兵第六聯隊は激戦と申し乍ら僅々の時間に於て僅かに四百名内外に減滅致しました當時を二十六年前に回顧し、且つ私が副官として業へたる我大越大隊長の壯烈悲壯なる自刃を以て武人の最後を遂げられ又幾多の奮

部下を倒し戦友を失ひたる私が茲に生恥を晒しつつ御話を申上ることは追憶眞に悲痛に堪へぬものがあります。元來の蕪辭其思ふ所を盡さざるは深く御諒恕を御願ひ申上ります。

奉天會戰の乃本一般戦闘に最も關係ある揚子屯攻撃に就ては鈴木少将閣下の御講話もあり殊に只今三宅少将閣下より千洪屯攻撃に關し軍師團旅團聯隊等の關係に付き極めて詳細且つ頗る明快なる御話がありまして

私の申し上げ様と考へましたことも幾と盡きて居りますが、私は御示しもありましたので私が経過致しました真に一尾限一局地の細かき戦闘行動に付て申上ること、致します。從て御話し致すことも自然他との連繫に不充分殊に時間關係等も適確でない處があります。之れは御容赦願ひ只私の身邊に起りました戦闘行動として御開逸しを累ねて御願致します。

奉天戰の當初滿洲軍總隊備たりし我第三師團は三月四日第二軍司令官の部下に入り翌五日夕第三軍の繞回運動の爲め遠く北進するに

### 文藝募集

當り我師團は第九及第七師團の一部と交代する筈でありましたが、當夜は交代の爲め混雜し前面の敵情も全く不明地形其他も全く不知の姿勢に於て直ちに明拂曉の強襲は頗る不安のものでありましたが、南部第五旅團長閣下の意見具申もありまして明六日は偵察に充て翌七日愈々攻撃と云ふことになりました。其關係状況は只今三宅閣下から詳しく御話がありましたから省略致します。

香りのヨイ

本場新茶 入荷致しました

◎一斤 二、〇〇 一、六〇

香味本位の本場録茶を召上りませ

御來店の方に一服呈上

電三九六番  
番百 大勝園

女給さん數名募集

ランチルーム 一の井

希望ノ御方ハ平町十五丁目 一の井へハガキデ申込下サイ

お客様本位の...  
好適の眼鏡

常盤屋時計店

小兒ノかんむしニあかひき丸堀藥局  
平町二丁目 電話三三六

磐城セメント會社特約店  
久全屋商店  
磐城平町五丁目 電話九番九九番  
□良品廉賣に勝る商略なし  
□確實敏捷はの生命なり

外科 X光線科  
性病科  
外科  
平町田町  
安齊外科醫院  
電話四七五番

江戸前料理  
御家庭...御膳二人以上  
松 一人前 圓五品附  
竹 同 圓廿錢六品附  
梅 同 圓五十錢七品附  
ゼヒ一度御試食下さい  
仕出し 錦水  
電話五四番

市原醫院  
平町田町(電話一一四番)  
内科、小兒科 市原卯太郎  
外科一般、婦人科 市原陸郎  
外科、梅毒、淋毒 市原三三男  
入院隨時

# 米は地主の 手中に握らる

## 平町の在米調査

平穀物検査所に於いて最近調査した平町の在米高を見ると地主側が千三百八十四俵、各公共団体が千五百十俵を抱へこの兩者が平町在米の九分通を獨占して居り生産者の所有は僅に三百二十二俵で殆んど自家用米のみに過ぎず商人間の所有米も買入た新米は大半賣拂つて所有高は生産者と同じ位へであらうと

# 漁港 中の作 猛運動

石城郡江名町字中ノ作漁港修築問題は同町多年の懸案にして町民は屢々是れが實現方を縣廳に陳情し來つたが市町村土木費補助として同港修築の豫算を計上されたいと二日河野江名町長、太信用組會長、町議遠藤俊一郎氏外數名が出縣赤土内務郡長並に土肥土木課長に陳情した

## 赤十字總會

### 平町出席者

明日の赤十字總會に平町からは有功章の羽岡平三氏を始め左記特別社員が今朝

## 學事統計 審査日割

縣學務課では来る八、九の兩日午前八時より團體事務所樓上にて郡下各町村役場並びに小學校の學事統計審査會を開催するが各町村別日割左の如くである

(八日) 上遠野、入遠野	川部 勿來 田人 永戸
大野 川前 泉 渡邊	植田 山田 錦 小名濱
豊間 江名 鹿島 玉川	澤渡
(九日) 平 飯野 夏井	高久 磐崎 湯本 内郷
好間 赤井 神谷 草野	大浦 四倉 平窪 上下
小川	

## 學年研究

平町各小學校學年研究會は来る十七十九の兩日午後一時より平第三小學校に於て開會されるが當日の各學校出席者は左の如くである (第一校)黒木リヨ 横

### 平町物價

白米 一等一キロ	一六五
白米 二等同	一五五
白米 三等同	一四五
白麥 同	九〇
平麥 同	一二〇
味噌 一貫目	五〇〇
醬油 一升	三五〇
清酒 同	一〇〇〇
木炭 樽丸	一四八〇
木炭 雜割	一四〇〇
砂糖 赤白	一三〇〇
砂糖 赤	一三〇〇
豚肉 中上	二〇〇〇
豚肉 中	二〇〇〇
牛肉 中上	二五〇〇
牛肉 中	二五〇〇

田瀧藏 吉成友重 坂内  
キノ 平塚ムメ 矢野カ  
ネ 引地淳四郎 根本菊  
義 (第二校)先崎清 鈴木ト  
ク 海老原英 木村ヒデ  
四家安男 蛭田イサ 渡  
邊ツナ 山森タマ  
(第三校) 鈴木ミエ 遠  
藤秀夫 蛭田好一 吉田  
ミサオ 古川チヨ 天川  
フミ

## 博覽會便

▽審査品の褒賞授典式は八日舉行の豫定であつたが都合に依つて十日午前十時から閉會式を兼ねて舉行する事に決定した

記の如くである  
(萬歳)三好家満月 立花  
みどり、舞踊)敷島丸子  
(珍藝)瀧川鯉橋(萬歳)敷  
島艶子 同貞子(萬歳)敷  
島愛子 同丸子

## 平職界紹介所報告

●求人部  
△出前持 三十三迄 尋卒  
月十圓(平町某料理店)  
△看護婦見習 十六才 高  
卒 給料面談(平町某醫  
院)  
△女中 五十才前後 尋卒  
月五圓(平町某)  
△賣子 四十以下 尋卒  
賣上の二割給(平町某)  
●求職部  
△兒守 十三才 尋卒 給  
料面談(内郷村某)  
△雜夫 四十七才 尋卒  
給料面談(内郷村某)  
△女中 十九才 尋卒 給  
料面談(川前村某)

## 關西の旅

第七信) 五月二日今日  
は旅行の終了日です。家に  
早く歸りたくとも思ひまし  
たが、今日になるともつと  
この様な旅を二三日續けた  
い氣もないでもありません  
午前七時江の島を發し、鎌  
倉につき先づ長谷寺に參詣  
し、露座の大佛を見學しま  
した。此の大佛は奈良の大  
佛とも一種趣を異にし、靜  
かに冥想したその慈悲のこ  
もつてゐる御顔に接した時  
有難さが中心に湧き起りま  
した。赤黄、白のつゞじで  
美しく彩られた清い參道を  
とほり八幡宮に參拜しまし  
た。石段の左手の大いふ

若宮堂を見ては古へを偲び  
鎌倉宮や護良親王の幽閉さ  
れたといふ土牢に詣でた時  
は、大塔宮様の御心中を御  
察し、悲憤の涙が湧かざ  
るを得ませんでした。長い  
石段を登り、苦むした頼朝  
公の墓前に立つた時は六百  
年以前の鎌倉武士の質素な  
そして剛毅な事を思ひ浮べ  
ました。十時二十三分電鐵  
で鎌倉に別れをつけ東京に  
出發しました。上野の松坂  
屋に入り近代的デパートの  
雑踏と、朗らかと、親切を  
もつて雄々しくも活躍して  
ゐる乙女達を見ては考いざ  
せられる点が多うございま  
した。一行辛うじて二時十  
五分上野驛よりなつかしの  
我家へと出發しました。驛  
で多くの先輩の御姉様方に  
お見送りをしていたゞさま  
したことは私達にとつてど  
れ程感められましたことと  
せう。有難く紙上をもつて  
御禮申し上げます

# 募 三勇士遺族の 弔慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も  
爲めに慟哭せむ、實に振古未有驚天動地の偉業に  
して人生を超越し洋の東西に冠絶す、古今英雄多し  
と雖も蓋し三勇士に如くものならん宜なる哉其の  
心情英雄以上の英雄なり、  
今や同胞國を擧げて戦に赴かんとする誰か彼の三勇  
士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕  
し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士  
氣を鼓舞し外は國家の威武を宣揚する誠に三勇士に  
負ふ處甚だ大なるを痛感するなり、  
名將曰く「吾が皇國も三勇士ありて亡びず」と眞に  
至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり、  
然り彼等三勇士こそ日本軍人の龜鑑にして大和民族  
發展の尊き犠牲者なり、  
吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不  
磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ薄志を錢け  
以て聊か勇士の靈を慰んとす  
愛國の士奮つて賛せられんことを

## 阿部政右衛門 後援 常磐毎日新聞社

- 但し
- 一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます
  - 二、右弔慰金は平驛前丸ツ阿部石炭店又は常磐每  
日新聞社に御届を乞ふ
  - 三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書  
に代ふ

## 寄附者芳名

一丁目	吉田 正博	南町	吉村 輝夫
同	松本 善一郎	同	太田 守三
同	鈴木 清太郎	杉平	松浦 誠
同	猪狩 實治	六間門	中村 サダ
同	織田 萬次郎	同	同 サ
同	松本 隆太郎	同	同 一
同	關内喜久次郎	同	伊藤 重善
同	森下 民藏	同	同 カ
同	渡邊 幹雄	同	同 カ
同	中村 清吉	同	同 山本 稜威雄
同	坂本 武	同	同 高橋 襲次郎
同	白銀町	同	同 眞木 正之
同	鍛冶町	同	同 江尻 豊

# 二十三歳の青年が 一萬圓を拐帶

## 東京に高飛びせんととして 松の壽司で札ビラを切る

### 平署が取押ふ

双葉郡熊町大字夫澤字田和子四安之助九男佐々木重光(三)は數年前上京後郷里には音信

不通で居たが三日午前十時頃突然實家に歸宅し

家人の不在中を奥の間用筆筒から一萬五千圓入の農行銀行通帳、四千圓記入の郵便貯金通帳、米百二十俵分の約束手形を手に印鑑及び現金三百六十圓を持ち出し再び東京に引返さんと浪江驛前から加村某の

運轉する一七七號自動車に乗り一路平町に逃走し來り平驛より急行列車に

乗車せんと昨夜十一時頃驛前新通り松ノ壽司方で運轉手と共に札ビラを切つて居た處を浪江署からの照會に依り逮捕された

## 保護者 總會開く

平町各小學校保護者總會は來る二十三日午前九時より第二小學校講堂に於て開催すると

## 夏枯れを 控へて

### 紹介所閑散

平町職業紹介所の四月中成績は求人が男六十六名、女二十三名、計五十九名、求職は男八十五名、女二十六名、計百一十一名で其のうち就職した者は男四十名、女十五名、計五十五名で前月中に比較すると求人求職共に四十六名の減を示して居るが是れは産業博の求人も三月で決定した上一般の求人方面が夏枯れを控へて居る爲である

## 説諭願二件

### 工事金の請求

平町立町菓子製造業緑川太次郎は昭和七年十月中前記箇所に住宅及び工場を建築する際その基礎工事を三百三十五圓三十九錢にて石城郡湯本町字天王崎戸倉重次郎に請負はしめたが工事材料として二百七圓四十六錢を支拂つたのみで残額百二十七圓九十錢は再三請求し

## 平商校が 野外演習

### 今月下旬頃

平商業學校四、五兩學年八十餘名は今月下旬駒場、麻原兩教官並に各組主任指揮の下に湯本町堀坂山を中心として野外演習を行ふと

## 郡醫師會

### 八日に開催

石城郡醫師會では來る八日午後一時より丸友ホール樓上に於て總會を開催本年度豫算並に事業計畫等に就いて協議する由

## 急ぎ過ぎて失敗

### 落ちたも知らず眞ツしぐら

石城郡内郷村字宮澤雜貨商後藤正隆(三)は三日午後三時頃商用の爲め自轉車にて磐崎村字藤原地内を通行中自轉車の後部に積んで置いた時價二十圓餘の雜貨を遺失したのを歸宅後発見駐在所に届出した

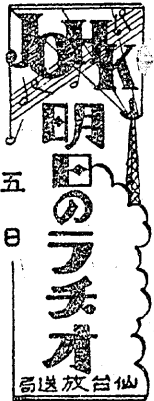
## 見廻り人を 強打し罰金

### 石城郡好間村大字北好間字

堂田四十一番地坑夫泉義夫(三)が赤井村筒井炭礦に雇はれ中去年十一月八時頃見廻り人筒井重司に怠慢を結問されて憤り所携の金棒を持つて毆打し前頭部に全治三週間を要する裂傷を與へた傷害事件は本日午前九時より平區裁判所に於て中島判事係り上田檢事立會の下に公判開廷罰金四十圓に處せられた

## 平裁判所便り

△石城郡四倉町宇新町百四十番地黒川マサ(三)は本年一月三十一日午後七時頃不注意の爲め居宅一棟を焼失せしめ失火罪として罰金二十圓



### 明日の天気

今晩は南東の風曇り明日は南東の風曇り夕方雨

## 今晚の部

後六、〇〇(子供の時間)「東西早廻り放送リレー」  
後七、三〇「趣味講演美術漫談」竹内栖鳳  
後八、〇〇「俳諧」島田音頭「竹子外」  
後八、一〇「俳諧」正調安來節「安來節保存會連中」  
後八、二〇「筑前琵琶」地震加藤「平田旭舟」

## 明日の部

後八、五〇「グアイオリンと管絃樂」(新交響樂團練習所より中継)  
後九、三〇(奉天より)「後九、四〇」全國ニュース  
氣象通報 番組豫告  
前九、一〇料理献立「新練の山椒焼」東北女子職業學校  
前一〇、三〇講演 社會局長官丹羽七郎

## 上小川遠足會

石城郡上小川村小學校では昨三日左記の如く全校生徒の遠足運動會を行つた

尋常一、二、三年生は赤井村字高萩の諏訪神社、三、四年生は赤井村字西小川の田頭堤に、五、六年生は赤井嶽へ、高等一、二年並に公民生は豊間村鹽屋崎燈臺迄

## 江名凱旋歡迎

石城郡江名町より滿洲駐屯軍に出征中であつた歩兵上等兵作山英夫氏外一名は除隊となり去る二日在郷軍人分會小學生の盛大な歡迎を受けて凱旋したと

## 平町人事

△結婚 〇 〇  
△京都府與謝郡岩瀧町字岩瀧糸井晃一氏(二八)田町一六石坂富美  
△死亡 〇 〇  
△南町三當時内郷村字宮澤二山内秋治(二ツ)

## 大塚の 學生靴!!!

耐久新製品  
編上靴 六・〇〇  
半靴 五・〇〇

## 大塚製靴部

電話七七番

不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……



# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】  
悟道軒 圓玉演  
近藤 紫雲畫

〔第四十一席〕 眞庭念流達人櫻井五助

村主殿の奸計  
森川甚平は村上と遠藤に左右より斬り付けられ身を置いて逃げたが脇差も帯して居らぬ、これは殿様よりの御沙汰を聞く時には無腰になるが禮儀です、それゆえ刀は勿論脇差も次の間に置いた、これを取らうとした處を踏込んだ村上が又斬り付けた、受け損じて左の肩を割付けられアツと云ふと遠藤がツカと進み寄つて斬り込んだ、ザツクリ頭上を斬られてキャツと云つて仆れる、此時に村上が遠藤仁右衛門に斬り付けた、何條堪りませう、まさか村上が此様な事はいたすまい、いやこんな事があるべき譯は無いと油断をいたしてゐる、さすれば受けるも引くも出来ない左の耳の下から咽喉にかけて斜めに斬られウーンと云ふと横にバツタリ倒れる、咽喉を深く斬られた事として只一刀の下に絶命した村上主殿は遠藤の息の絶えたを見すまして刀の血を拭ひ鞘に納めて今度は脇差を引抜いて森川甚平に止めを刺し髪を切つてこれを紙に包んで懐中いたし、それから遠藤仁右衛門



りなされること、存じます。主「イヤ遠藤は怪我をいたした、早速彼の許へ知らせよ、イヤ森川甚平の爲に傷を負うた」七「へエ遠藤様はお怪我をなさいましたか」主「ウン甚平が狂氣いたし引抜いて斬り付け居つた、拙者はこれより御殿へ参る貴様は遠藤の許へ知らせろ」七「畏まりました」主「と駈行く後姿を見送り又元の部屋に引返して来て甚平の脇差を抜き、それに血を塗つて死骸の傍におきこ

と怒う申しした殿「オウ主殿首尾よく彼を撃果したか」主「御意の如く刺止めましてございます、血に汚れたる扮装にてお目通りへ出ますは甚だ御無禮な事には存じますが、確に彼を成敗いたしました、これが證據にござります、猶甚平の髪を切つて持参いたした、御覽に供へます」殿「オ、大儀であつた、遠藤は如何いたした、コレ遠藤は何とした」主「残念至極」殿「残念とは倍も心懸りの事である、仁右衛門は傷を負うたか」主「左様にござります」主「神原侯これを聞いて櫛をすべり膝を進ませ殿「なんといたした傷は浅いか」主「急所の痛手として只一刀の下にこと切れましてございます」殿「それは憫然な事をいたした、森川は放蕩者なれど剣法にも達し居れば油断いたすなよと呉々も申付けたが」

主「御意の趣森川に傳へましたる處通れぬ處と彼れは覺悟いたし、首差押べて遠藤の刀を受けると申しましたはこれぞ油断をさせる計略、近寄るを待ち後にありし脇差を引抜きサツと斬り付けました、遠藤は左の耳の附根より咽喉にかけて殿「返すくも憫然な事をいたした」

主「私其時コハ一大事なりと彼に渡り合ひやうやく森川を刺止めましてございます、猶お上より遠藤にお渡しなされたこれなる國俊の切味を試めましてございます、天晴業刀お手許へお差置き遊ばされますよう」殿「ウン國俊はよく切れるか、これは此度の褒美として其方に取らせる、遠藤は不幸な奴ぢや」と申して其座を立ち、奥に入る、村上主殿は然すまじたりと喜び、拜領した刀を携へ上々の首尾にて下つた、氣の毒なのは遠藤仁右衛門、村上の奸計にかつて悲惨なる死をいたした、此人には妻はれども子が無い、それ故家名は一時絶えた、此の遠藤の甥が櫻井五助です。

## 踏デモ叩イテモ

### 絶対コハレ又時計硝子

丸型時計入替 二十 十 錢  
角型時計入替 四 十 錢

# 秋山時計店

平 驛 前

### りん病

こしけ 永らく悩む人の福音  
天下の名湯別府温泉で出来た無効返金責任藥

## 岩別府本

全國知名新聞 朝日、東京日々、大阪毎日、富士、雑誌 推奨 講談俱樂部、主婦之友廣告乞御參照

右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし慢性淋病、こしけ、渦濁の病みは不思議に止り連服するも絶対胃腸傷害なき各業であります。

尚ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効なき時は殘藥引換に全部異議なく返金します。

論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢性、悪性の人は七日以上服差して下さい。

美本淋病治療書無代進呈 此の新聞各記入申込者に付前金申込者には送料無料、新品送藥す。

代金引換廿三錢手数料金納の事。

### 藥價

急性用(黒箱) 一週分 參圓  
慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約一 平町古鍛冶町一〇  
手販賣 阿康藥舖

縣社ノ下(電話四四番)

## 耳鼻咽喉科専門

# 大和田醫院

平町南町 電一七〇

## 高橋時計店

平町 橋路

貴金屬  
時計及眼鏡類  
懷中電燈  
キミガヨ電氣  
ランプ特約店

父喜正儀沖繩縣八重山郡竹富村ニ  
出向中ノ處去ル三月二日午前十時  
死去仕り候間此之段御通知申上候  
追テ葬儀ハ來ル五月六日午後一時自宅柳  
町出棺長源寺ニ於テ告別式相營ミ度ク次  
第二御座候  
昭和七年五月四日  
柳 町  
山崎今之介